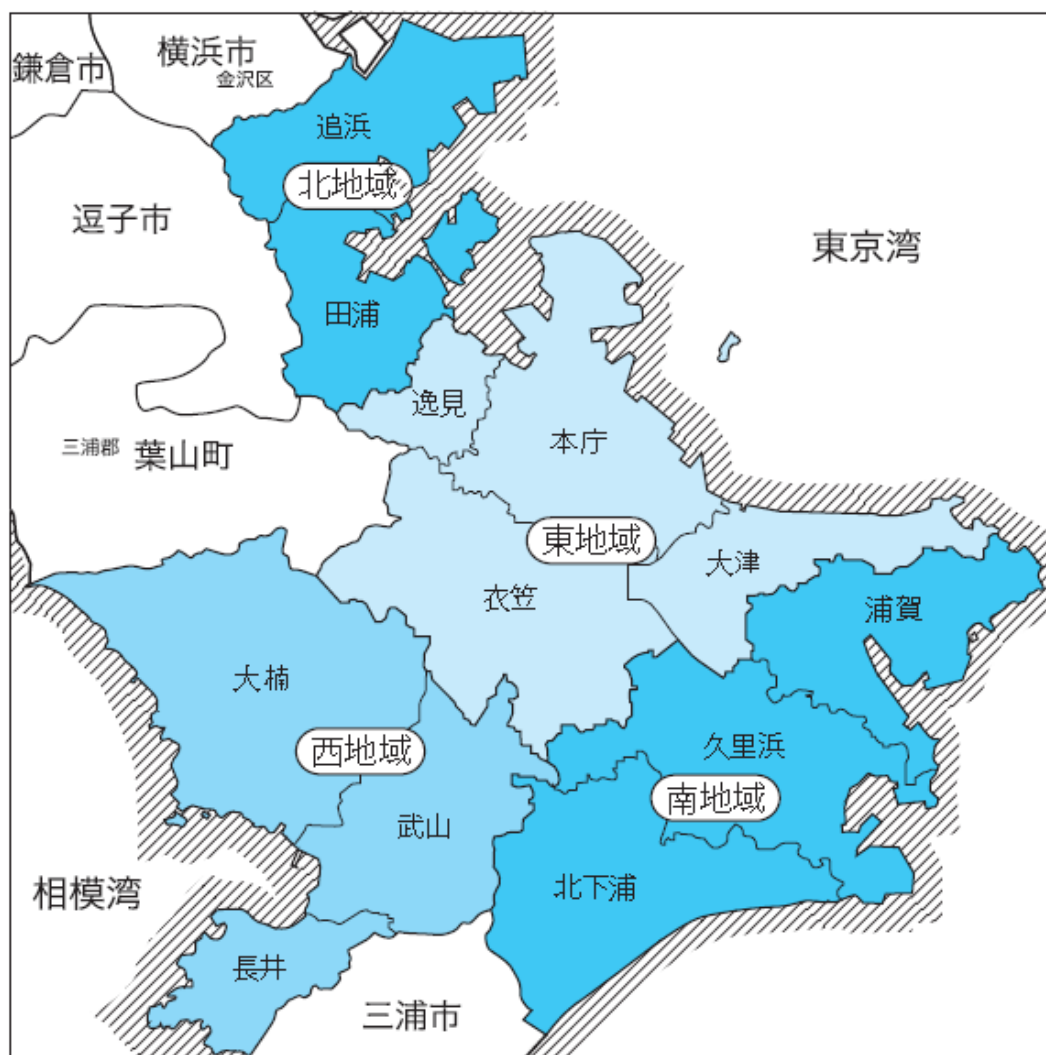


6. 地域別計画の進捗状況

(1) 地域別計画における地域区分

本計画では、各地域における特性や課題に対応するため、市内の10の行政区域を4つの地域(北、東、南、西)に区分し、それぞれの特性や課題などを整理し、重点的に取り組むべき課題と施策の項目を定めています。



地域区分図

(2) 北地域（追浜、田浦行政センター地区）

① 北地域特有の環境に関する現状

本地域の東側（東京湾側）は広大な埋立地を中心とした工業地帯が広がっており、西側には谷戸や斜面緑地が多く存在しますが、平成22年度に実施した緑被率調査では、本地域の緑被率は45.4%となっており、市域の中でも緑の少ない地域となっています（全市域では53.8%）。また、熱帯夜における平均気温が市域の中でも比較的高く、ヒートアイランド化が進んでいる状況にあります。

交通の状況としては、三浦半島と横浜方面を連絡する交通が国道16号に集中し、通過交通と生活交通の混在による交通渋滞や安全確保が問題となっています。

こうした状況から、本地域では、谷戸地域における自然災害への対応やヒートアイランド対策としての緑化の推進、交通流の改善などの取り組みが必要とされています。

② 北地域における主な施策の実施状況

平成23年度は本地域において、急傾斜崩壊対策事業を13件実施しました。また、地域の花いっぱい事業（追浜地区）などにより、緑化の推進を図りました。交通流の改善としては、長浦臨港線の整備のほか、国道357号の整備や三浦半島中央道路の早期整備のための要望活動を実施しました。

(3) 東地域（本庁および逸見、衣笠、大津行政センター地区）

① 東地域特有の環境に関する現状

本地域は本市の中で最も人口が多い地域であり、本庁地区を中心として、商業の中心地域となっています。また、主に東京湾側に市街地が形成されており、中心市街地をはじめ、丘陵上部、海岸部、谷戸部など広範囲に住宅が形成されている一方で、汐入町や富士見町などの地域では、本市特有の景観を作り出している斜面緑地や谷戸が多く存在します。

海岸線を見ると、人工海岸が主ですが、走水などには自然海岸が残されており、また、沖合には東京湾唯一の自然島である猿島があります。

こうした状況から、本地域では、北地域と同様、自然災害に対する対応のほか、市街地における緑化の推進、海とのふれあいなどの取り組みが必要とされています。また、人口・商業が集中していることから、まちの美化に関する取り組みも求められています。

② 東地域における主な施策の実施状況

平成23年度は、自然災害に関する施策として急傾斜崩壊対策事業を24件のほか、大津地区における高潮対策事業など実施しました。また、北久里浜駅前通りの植栽、公共施設花壇（市役所前公園ほか4カ所）の運営などにより、緑化の推進を図りました。

海とのふれあいについては、10,000メートルプロムナードの整備推進やエコポート事業（走水におけるシェノーケリング教室）などを実施し、美化に関する取り組みとしては、Yデッキ周辺における清掃委託、開国祭花火後のボランティアによる清掃などを実施しました。

なお、猿島については、自然観察会や猿島公園ガイド養成講座補講を実施したほか、エコツアーの実施場所として選定しました。

(4) 南地域（浦賀、久里浜、北下浦行政センター地区）

① 南地域特有の環境に関する現状

本地域は、自然の丘陵と海岸線が残る観音崎や、武山周辺の丘陵など、自然環境がゆたかな地域となっています。しかしながら、一部の海岸では、砂浜の侵食が進み、岩盤や護岸が露出している地域も見られます。

また、野比の海辺には、イソギク、ワダン、ハマボウフウが自生し、溪流にはホタル、トウキョウサンショウウオなどの多様な生物が確認されています。

その他、本地域の特徴として、浦賀周辺に歴史的・文化的遺産が数多く残された地域となっています。

こうした状況から、本地域においては、海岸の保全や生物多様性に関する施策、歴史的・文化的遺産の活用などに関する施策が必要となっています。

② 南地域における主な施策の実施状況

平成23年度は海岸の保全に関する施策として、野比、北下浦海岸における侵食対策を実施しました。また、観音崎や燈明堂、久里浜海岸などで海浜の美化活動を推進しました。

生物多様性に関する施策としては、野比川における環境に配慮した床張りブロックの設置を実施したほか、野比地区を里山的環境保全・再生のモデル地区として、観音崎をエコツアー実施場所として選定しました。

歴史的・文化的遺産の活用としては、浦賀港周辺地区再整備事業として、(仮称)ミュージアムパークの整備に向けたイベントなどを開催しました。

(5) 西地域（西行政センター地区）

① 西地域特有の環境に関する現状

本地域は、大楠山・武山を峰にして展開される丘陵地からなる地形であり、西側は相模湾に面しています。平成22年度に実施した緑被率調査では、全市域の緑被率が53.8%であるのに対して、西地域は72.6%であり、市域において最もみどりのゆたかな地域となっています。

また、水系としては松越川、竹川、前田川などを有しています。海岸線では長者ヶ崎から佐島にかけて砂浜が続き、笠島、天神島、荒崎海岸には岩礁が残されています。

こうした状況から、本地域においては、このようなゆたかな自然環境を保全することが最も重要な課題となっています。

② 西地域における主な施策の実施状況

平成23年度はみどりの保全に関する施策として、近郊緑地特別保全地区における土地利用行為の制限や三浦半島国営公園の誘致活動などを実施しました。河川では、前田川において親水施設の改修を進めるとともに、関根川・関渡川のネットワーク化を図り、水とふれあえる場の創出を行いました。

その他、天神島臨海自然教育園の保全管理を行うとともに、長坂地区を里山的環境保全・再生のモデル地区として、大楠・西海岸をエコツアー実施場所として選定しました。